

希望

チューリツヒ日本人学校便り

平成 29 年 2 月 16 日発行

第 38 号

発行人 校長 鈴木史良

次年度の展望と学校体制

—— 学校説明会で新年度の学校体制を発表 ——

2月14日(火)の午後3時から、新年度の学校説明会をおこない、校長から以下のことについて保護者に説明いたしました。

- 1 年間を通しての学校教育活動についてのご理解、ご支援
- 2 教育課程、学級編制について
- 3 派遣教員、現地採用教員の異動
- 4 危機管理体制の充実、強化
- 5 学校自己評価の充実
- 6 その他(30周年記念行事)

本年度末で帰国することが決定した教員は今年度教頭を務めた山田遊教諭、中学部を担当した小林亮博教諭です。両教諭とも3年間にわたり、子どもたちのために誠心誠意努めてまいりました。

私たち同僚教師からも本当に頼りになる心強い存在として、本校の教育を支えてくれました。帰国後は、それぞれ所属する東京都、さいたま市の教員として勤務し、海外で培った経験を生かしてくれるものと期待しています。両教諭の後任として、4月に日本から2名の教諭が着任いたします。

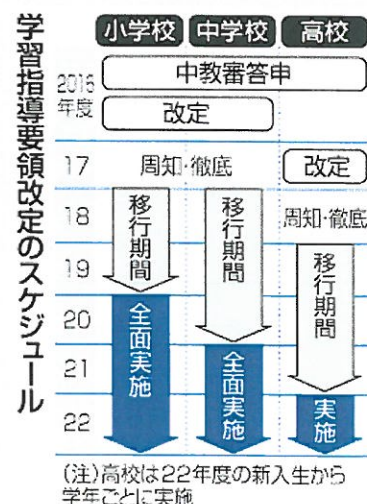
新年度教職員数及び新年度入学者、編入学者数の確定(2月1日現在)に伴い、学級編制を以下のように決定いたしました。

小学部 1・2年生	・・・	1 複式学級 (1年生 4名 2年生 1名)
3・4年生	・・・	1 複式学級 (3年生 1名 4年生 0名)
5・6年生	・・・	1 複式学級 (5年生 4名 6年生 0名)
中学部 1～3年生	・・・	1 複式学級 (1年生 2名 2年生 1名 3年生 1名)
		学級数 計 4 学級 在籍生徒数 計 15 名

※ 2学期から小学部1年生1名編入予定

今年度と同じ学級編制により、教育課程も大きく変わることはありません。3学期制で、年間授業日数は196日です。授業形態につきましては、国語、算数などの主要教科は学年ごとのマンツーマン授業に近い形を継続し、一人ひとりの子どもの力を把握しながら、基礎基本の習得を徹底させます。そしてその子どもに適した体験等を通して学ぶ意欲を高め、思考力や判断力、表現力を伸ばすことができるような授業を進めてまいります。実技教科はこれまで通り複式学級単位でおこないます。

また、2月14日に文科省から公表された小中学校の学習指導要領改定案について、話題を提供いたしました。グローバル化に対応する新学習指導要領は、小



学校が2020年、中学校が2021年に全面実施となります。そのため2018年から移行期間が設けられました。本校もそれに対応するべく、2017年度を移行への準備期間として位置づけたいと考えています。

ピュント校交流～中学年

小学部低学年、高学年の交流に続いて、2月9日（木）の2、3校時に中学年の交流がおこなわれました。本校にピュント校の3年生20名が来校、まず体育館で名札にドイツ語と日本語で記名しました。ピュント校の子どもたちの発音を聞き取って名札にカタカナ書きする本校の4年生は大奮闘。2人で20人分を書き上げました。ピュントの子どもたちは日本語で名前を書いてもらい、興奮気味に互いに見せ合っていました。その後ゲームや折り紙、家庭科室で日本語を学んだりして楽しみました。本校4年生は、ホスト役として大活躍しました。



シーメンス工場見学～高学年

2月9日（木）の5、6校時に高学年3名がバリセレンにあるシーメンス工場を訪問しました。本社はドイツにありますが、鉄道関連のこの工場は100年の歴史をもっています。映像で会社紹介を見た後、レンガ造りの工場内に案内され、安全靴に履き替えて作業場を巡りました。整然とした清潔な工場内で多くの部品が加工される様子を見学しました。それが終わると、今度は列車の動きを制御するコンピュータ室に入り、線路のポイント切り替えのシュミレーションを体験しました。スイス国鉄の近郊電車（Sバーン）はシーメンス製が採用されているそうです。



J Sマーケット始まる！

2月15日（水）～16日（木）間は、小学部低学年による生活科の学び「J Sマーケット」が開催されています。自分たちがつくったおもちゃで、みんなで楽しくあそぶことに興味をもつことや、遊びのルールを考えて言葉や掲示物でみんなに伝えられるようにすること等がこの学習のねらいです。1、2年生教室は手作りモグラたたき屋さん、ペットボトルを倒すボーリング屋さん、トントン相撲屋さん、お花屋さんなど、楽しい遊びの店でいっぱいになっています。特性の紙幣J Sフランを手に遊びにきた上級生たちも夢中になっていました。体験入学児童たちも加わり、J Sマーケットはたいへんなにぎわいぶりです。



今学期のアクションプランの紹介

第2回学校評価の結果を受け、3学期は次のようなアクションプランを実行中です。
生活面：学校生活すべてで「～くん」「～さん」をつけて相手を呼び、授業中や全体の場では話の終わりに「です」「ます」を使う。

学習面：外国語学習の充実を図る。

経営面：ドイツ語習熟度別クラスを継続する。